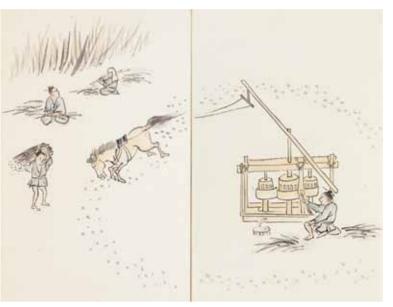
[『寺む)登録で表別した。 『は、 目だ)』・五m、横一九・二m。 皐津家文書-九二-五四~五八。七冊。縦|

た 内 窓 江 源太は、 にも参加した。「南島雑話附録」は、文政十二 と親しく交わり、 間切小宿(鹿児島県名瀬市)に謫居した。島人#、賃売ごを 政二(一八五五)年まで遠島となり、 近世においても琉球風の習俗は伝えられた。左 年の琉球征服により島津家領とされた。 然誌として評価が高い。 から琉球国領であったが、 附録」の二類、 画・記録の書。南島雑話は総称。 「南島雑話」(一・二及び三の二冊)・「南島雑話 「大嶹便覧」・「大嶹漫筆」・「南島雑記」と、 江戸時代の奄美大島の社会・ 八二九)年に大島に派遣された御薬園方の見 (お由羅騒動)に坐し、嘉永三年から安 一八一九~八一) 次代藩主に島津斉彬を擁立しようとし 島津家の上級藩士で、嘉永二(一八四 六部七冊。 異国船来着に備える絵図作成 奄美諸島は一五世紀頃 著述の 慶長十四(一六〇九) 大島の図解民俗・自 ・産業・自然の図 大島名瀬 しかし、

〔参考〕 ある。 聞役伊藤助左衛門の著述を左源太が転写したも 制された。綱牽の図は「南島雑話」一に収める。 世紀初頭から薩摩藩によりサトウキビ生産を強 図は「大嶹漫筆」に収める。奄美諸島は、一八 津家本と別の編成をなすのが鹿児島大学本(『日 雑話附録」を整序した浄書本。同系本に永井本 島津家本は明治時代に稿本や「南島雑話」「南島 る。草稿の一部(奄美博物館所蔵)、 伊藤の著述を左源太が転写したものとされてい の。「南島雑話」一・二・三も、 方限ニ別ち、他界にひき争う事なり」と説明が 本庶民生活史料集成』一に翻刻)。砂糖しぼりの (東洋文庫に翻刻。 の自筆稿本(鹿児島県立図書館所蔵)が残る。 八月十五夜綱牽之図、男を別け、 『日本庶民生活史料集成』 『南島雑話』(東洋文庫、 髪を結い簪を挿す習俗は、 一九六八・七二)。 奄美博物館所蔵)がある。島 <u>-</u> 平凡社、 最近の研究で、 或ハ村中西東 琉球と同じ。 **『大嶹便覧』** 一九八 $\widehat{\Xi}$



砂糖しぼりの図



21 南島雑話

綱牽きの図